



埼玉学習センター外観

放送大学
埼玉学習センターだより
2016年11月号
(通巻38号)



町制施行記念公園のバラ(伊奈町)

さ き た ま



平成28年度第1学期 卒業式・学位授与式

Contents

- P 2. 「孫々主義の勧め」、新任挨拶
- P 3. 生涯学習奨励賞受賞者
- P 4. 埼玉フェスタ
- P 6. 学生研修旅行
- P 8. 公開講演会、コレクション展 他



NACK5スタジアム(さいたま市)



孫々(まごまご)主義の勧め --平和を持続させるために--

埼玉学習センター所長 渋谷 治美

カント(1724-1804)は、晩年になって『永遠平和論』(1795)を書いた。

ところで彼にとって「平和」とは、理性によって想定される<理念>の一つであった。そして<理念>とは、あるところまでは接近できるが、完全に実現することは永遠に不可能であるような目標を意味する。つまりカントがいう「永遠平和」には、「永遠の平和」という表の意味と、永遠に実現しない、という裏の意味とがあるのだ。

—私が生まれる前に戦争があった。私が死んだら戦争がまた起こるだろうか。ともあれ戦争のない歴史状況を「平和」という。皆さんと同様に私も、この平和を(永遠には無理かもしれないとしても)できるだけ持続させたいと願っている。そのためにひょっとして役立つかもしれない考え方と行動として、最近「孫々主義」というものを思いついた。

とくに男性は、若いころは英雄や戦争にロマンを感じる傾向がある。だから平和のありがたみは、あるていど人生経験を経てから実感することが多い。ちょうど孫が生まれてくるころのことだ。この孫たちをゆくゆく戦争で死なせるかどうかは、かなりのていど、祖母、祖父の責任に掛かっているのではないだろうか。

そこである世代(A)がこの考えを貫いて孫たち(C)に平和をバトンタッチできたとする。次にA世代の子どもたち(B)が、同じくこの主義を貫いてその孫たち(D)に平和を継承するとする。すると最初のA世代にとってはひ孫たち(D)も戦争で死なないで済むわけだ。以下同文。—果たしてその先に「永遠平和」は訪れるだろうか。

付言すると、私は結婚していないから孫はいません、等々とおっしゃる方もいるかもしれない。でもそういう方であっても、例えば姪や甥の子どもたちのことを思い浮かべれば、ここで提唱する孫々主義に共感して頂けると思うのだが、どうであろうか。

人類よ、まごまごしながら平和を守ろう、というのが私の提案でした。

新任挨拶 茂木 一衛



平成28年9月25日聖堂内でのミサにて合唱を指揮。ヴェネツィア・サンマルコ大聖堂にて。

この度、客員教員としてお世話になることになりました。着任してまだ半年足らずですが、すでに面接授業にて楽しくお話しさせて頂いた学生さんもいらっしゃるし、着任後も教職員の皆様には歓迎の席を設けていただいたり、所長の渋谷先生はじめ親しくお話しさせて頂いたり、居心地良く過ごしております。住所がやや遠方(横浜)なので、センターに伺う回数など少なめになるかとは思いますが、参りました時は学習相談などしっかり対応させて頂ければと思っておりますので、ご遠慮なくお声掛けください。

私の専門は西洋音楽史、音楽美学で、シューベルトやモーツァルト、ベートーヴェンなどの作品の内容や生涯についての研究を行ってきました。彼らがどんな生涯をたどって、その名作がどんな生きる喜びを私たちに与えてくれるか明らかにし、ときにそれを物語化して若い学生諸君を音楽・芸術の世界へと誘(いざな)ったりもしています。ただ、大学時代前半までは理系を専攻してしまして自然科学にも関心があり、近年では音楽の宇宙論なども手掛けています。(古代ギリシャ時代以来、ヨーロッパには「音楽は宇宙の表現」という有力な思想もありました。)

またこれも学生時代から、合唱やオーケストラの指揮を行ってきました、現在も国内外でコンサート等を催しています。学問的な音楽研究を響きの実践にどう生かして、歴史的美学的に正しく、かつ感動的な音楽を実現するかということも、私の重要な研究テーマです。埼玉学習センターでも皆さんからのご希望などに応じて、まずはサロン等で簡単な合唱の楽しみなど、一緒に実践してみようかな、などと考えているこの頃です。

どうぞよろしくお願いたします。

事務員交代 教務係 着任 出水 えみか 退任 松村 聡子
 図書室 着任 南川 奈緒子 退任 藤井 明子 ・ 山崎 良子

平成28年度第1学期 生涯学習奨励賞



埼玉学習センターでは、複数の専攻・コースを卒業された方を表彰する「生涯学習奨励賞」の制度を設けています。

平成28年度第1学期卒業生からも10名の皆様が表彰されました。

受賞された皆様、まことにおめでとうございます。

金剛賞を受賞された山口眞知子様にコメントをお寄せいただきましたので、掲載させていただきます。

〔金剛賞〕 1名 山口 眞知子

(敬称略・順不同)

〔銀賞〕 5名 今泉 祉衣子・白井 昭治・金子 美代子・
是村 雅一・森作 勇二

〔銅賞〕 4名 近藤 裕二・南雲 薫・長岡 精二・大宮 勲

金剛 山口 眞知子

すばらしい賞をいただき嬉しくて素敵な気分です。

私にとって放送大学は、「知と巡り会い、人と巡り会う」ところです。

放送大学とは「苦楽する」ところです。

私が、入学した時、まさか「金剛賞」（入学時2001年には、まだありませんでしたが）までたどり着けるとは思ってもいませんでした。

最初は、不安や戸惑いが先に立ち、初めての登録は「環境社会学」ただひとつでした。その後は、自分のペース、事情、状況を考慮しながら勉強を進めてきました。2回目の卒業から3回目の入学までの間、放送大学学生をやっていたいなかった時期もあります。

最初は社会学が学びたくて、「社会と経済」の専攻を選びました。そこには政治学あり、法学あり、経済学ありで、それらは私には未知の世界でした。悪戦苦闘が始まりました。青ざめながらの勉強もしばしばでした。

他のコース（専攻）に進んでも悪戦苦闘は続きました。しかし苦しみついでに、この際だからと「宅建」等の資格もとりました（ただし、この時期は、放送大学の勉強を少なくしています）。

勉強を進めるうちに思った事は、視野が広がるという事でした。今までは感じ取れなかったものが、見えるようになった気がするという事です。そして、性別年齢に関係なく、お友達ができる事のすばらしさを感じる事ができました。若い方達とお話ししている時、自分の中に年齢と性別からくるステレオタイプの思考を発見し、愕然とした事もあります。「タコつぼ思考」は、やめようと思いつく思いました。

勉強していて「なんて難しいのだろう。私は、なんて馬鹿なんだろう。」と思える事が大事だとつくづく思っています。

これからも放送大学の学生として、学んでいこうと思っています。先生方、皆さん、よろしくお願いします。

10/
8, 9
土日

第10回 埼玉フェスタ



サークル展示・催し物



絵手紙教室



特別企画 物産販売



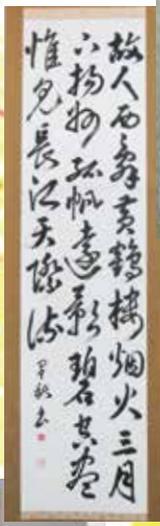
バザー



お絵描教室



特別展示 埼玉大学



茶席



公開講演会



朗読の会「こころ」



オカリナ演奏オンチーズ



健康体操



公開勉強会



ソシアルダンス



個人作品



映画鑑賞会



ジャズ演奏



交流パーティー



2016年度

学生研修旅行

企画・案内 埼玉学習センター所長
渋谷 治美



**テーマ: 野外彫刻のスケールを体感し、
箱根の自然と美の調和を堪能する**

今年度の学生研修旅行が10月13日(木)に催行され、曇天の中38名の方が参加されました。参加者の中から大塚絹子さんのレポートを掲載させていただきます。

また、初めての企画として、参加された皆さんから腕自慢の写真と俳句をお寄せいただきましたので、一部を掲載いたします。

箱根は実に50年ぶりで、彫刻の森は大いに期待しての旅であった。

かつて、同様に野外に彫刻を展示している美ヶ原高原美術館には行ったことがある。まだ、ところどころに残雪の残る5月であった。周囲360度の眺望の中の開けた高原に大きな作品が点在していたのを覚えている。今回は、箱根の森の中に点在する彫刻が、自然とどのように調和しているのか、とても興味があった。

起伏のある地形を生かした循環コースを巡ったが、ほとんど、予備知識を持たずに作品と向き合った。移り変わる無常の大自然の中で、人間の創造した数々の彫刻作品もまた、無常であることに気づかされた。

彫刻作品は、内側に閉じ込めている本質や心理を物語っている。ムーアの一連の単純化された丸みを帯びた彫像は、人種や民族を超えた普遍的な人類の愛の本質の表象であった。

ニキのミス・ブラック・パワーに圧倒された。近年の黒人女性の活躍はめざましい。けれど、まだ、彼女らは走り出してはいない。その秘めたパワーを自分から語ってはいない。やがて、白人への憧れの象徴である小さなバックを捨てて、大きな手を広げて、叫び、逞しい足で走り出すだろう。

林間の小品の中に、好きな佐藤忠良の作品を見つけた。彼は娘のオリエをモデルに、たくさんの少女の像を制作している。彼は、少女の大人への憧れと恐れを見事に表現している。

北村西望の将軍の孫の像は、いつ見ても、微笑ましい。見ている将軍の笑顔までが想像できる。優れた芸術作品は、その彫刻の内側の心情まで感じさせるものだ。

動く機械的な近代彫刻も現代社会の表象であり、動かない彫像は一層、能動的でさえある。自然の変化に晒され、見物人のあらゆる方向からの視線によって、その形は変化する。一瞬として不動ではない。無常である。自然の中で日々、刻々と変容する創造物は、見事に大自然と融合していた。

ピカソの作品も時代とともに、表現の手法が変化している。そうしなければ、独裁軍事政権への抵抗の絵を描くことは不可能であった。寓話的な表現の中に、現実の狂気を告発せずにはいられなかった芸術家の心情を汲み取るべきであろう。晩年の人間賛歌の愛の絵皿もすばらしい。

もう一度、美ヶ原にも行ってみたいと思う。

大塚 絹子

雲あつし彫像群の秋の声



秋の陽にくねくね曲がる幾何模様

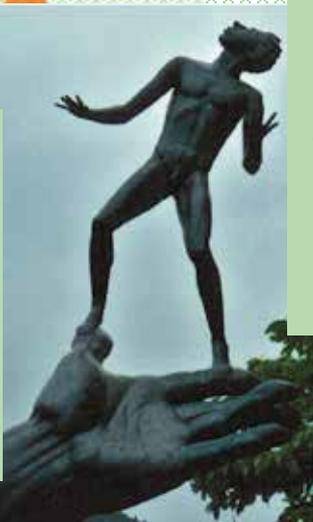


もみじ葉のほのかに写すアートの森

秋真昼指根の森の風の声



彫像の視線の先の秋の色



文豪バルザックの苦悩する内面性を深夜に想を練る姿

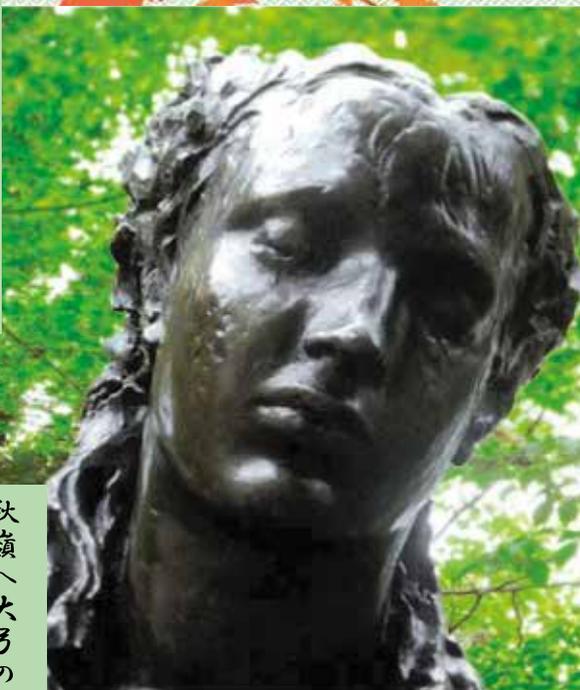
神の手の跳ぶ秋空にバルザック



秋曇ヘンリー・ムーアは足湯かな



天空に近き森林鳥渡る



バルザック髭の光なる秋気かな



秋の風吹かれ足湯でピカソ観る



思索する人

ヘラクレス弓引く先に秋の空



秋嶺へ大弓の弦ヘラクレス

君の名は、長すぎて！！



《Forest fairy in autumn》

箱根路の山肌湿らす秋曇り

彫刻や子らを遊ばす秋日和



平成28年度 公開講演会とコレクション展のお知らせ



放送大学附属図書館所蔵コレクション展のご案内

「日本残像～ちりめん本と古写真が語る幕末明治～」について

開催日：平成29年 1月 7日(土)～ 8日(日)

時間：10:00～18:00

場所：放送大学埼玉学習センター8F

展示内容：幕末・明治頃の風景・風俗・人物等を記録した古写真120点以上及び明治時代に生まれた木版多色刷り欧文絵本のちりめん本50点以上

公開講演会の開催について

平成28年度埼玉学習センター公開講演会は、「日本の古典文学の魅力」と「正しく怖がる」の2つのテーマで各5回のシリーズで実施しています。9月11日(日)は、前者のテーマで放送大学島内裕子教授が「方丈記と徒然草の人生論」と題し、原文を交えながら、「人生論の文学」という側面に力点を置いた講演を行いました。参加者は150名をこえ、関心の高さが感じられました。

講演後の質疑応答では、参加者から専門的な質問もだされ、島内教授はその1つ1つに丁寧に、また、少しユーモアを交えながら答えられました。

その後、埼玉同窓会主催による茶話会も開催され、参加者は島内教授との交流をさらに深められました。



シリーズA〔日本の古典文学の魅力〕

平成29年 1月 8日(日)	『源氏物語』の花と女性たち —梅と橘を中心に—	川島 絹江(放送大学埼玉学習センター客員教授)
平成29年 3月15日(水)	『枕草子』の季節—ホトトギスが鳴く頃—	赤間 恵都子(十文字学園女子大学教授)

シリーズB〔正しく怖がる〕

平成28年12月25日(日)	地球温暖化がもたらす環境の激変 —シロクマの予告する人類の未来—	牧 広篤(元気象庁高層気象台長)
平成29年 2月 5日(日)	私たちの住まう宇宙	大朝 由美子(埼玉大学准教授)
平成29年 2月19日(日)	放射線と放射能	永澤 明(埼玉大学名誉教授 放送大学埼玉学習センター客員教授)

年 末 年 始 閉 所 期 間

平成28年12月26日(月)～
平成29年 1月 3日(火)

埼玉学習センターに関する情報は、ホームページでいち早くお知らせしています。是非、ご覧ください。

<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/saitama/>

〒330-0853 さいたま市大宮区錦町682-2

大宮情報文化センター内(受付:10階)

TEL 048-650-2611 FAX 048-650-2615

